

医療・介護・福祉事業所の 減災とBCP

～事業継続計画 私たちの場合 第六報～

医療法人社団 幹人会

(法人本部事務課長) 夏海 啓

(法人本部統括部長) 大塚恵利子

(老健“ユニット菜の花”施設長) 日下部史郎

(老健“菜の花”施設長) 小室 勝利

(施設管理担当理事) 和田 省三

(法人統括常務理事) 玉木 千鶴

(理事長) 玉木 一弘

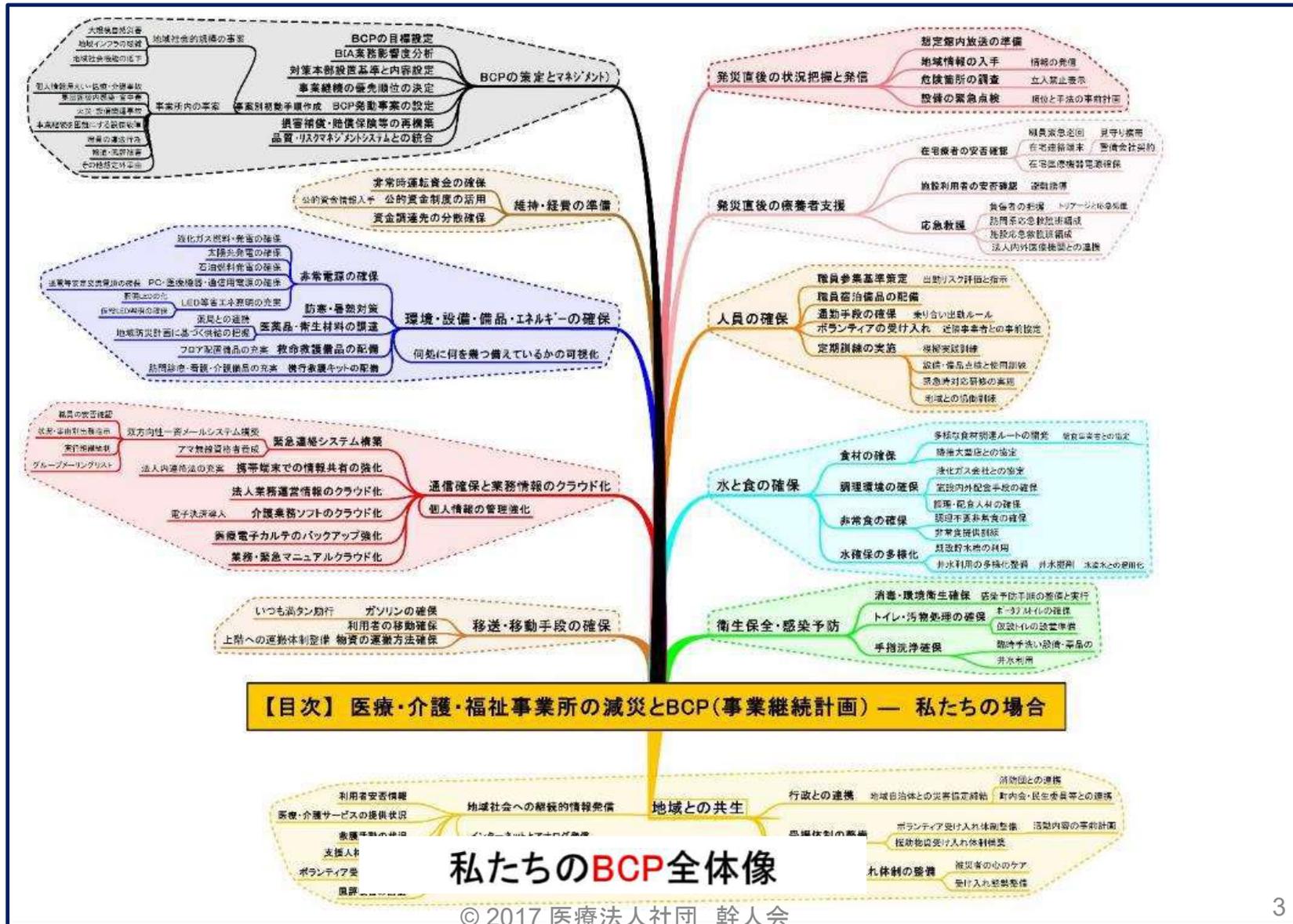
【演題発表に関連し、開示すべき利益相反(COI)関係にある企業などはありません。】

BCP(事業継続計画)とは？

大災害・パンデミック感染・大事故等々、事業の継続的提供を脅かす危機事案に備え、被害を最小限に抑え、必要な業務が継続できるよう、事前に定めておく計画のことです。



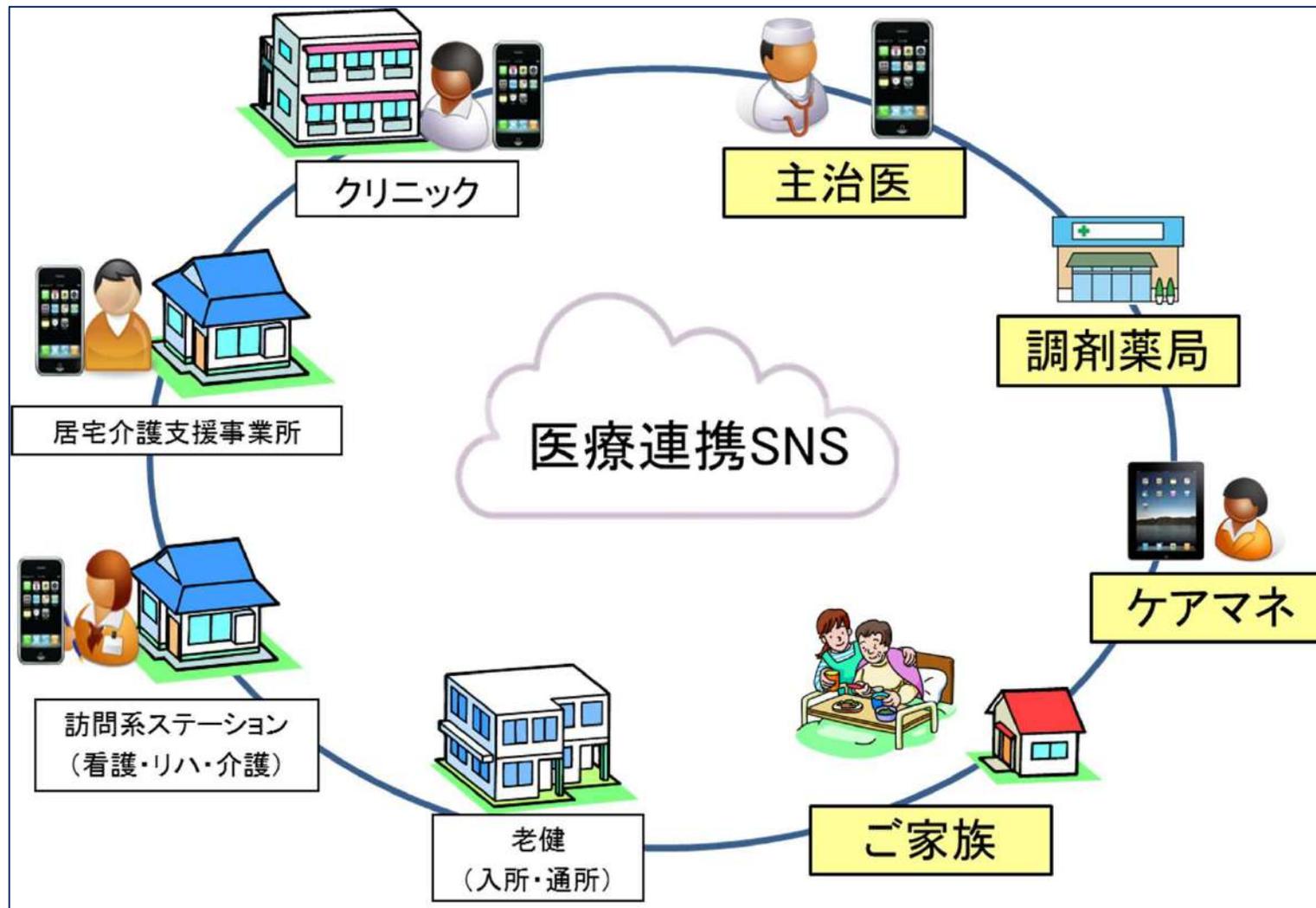
・第一報(2012年) 東日本大震災の経験から、私たちの現場に即したBCPの策定と訓練課程を報告。



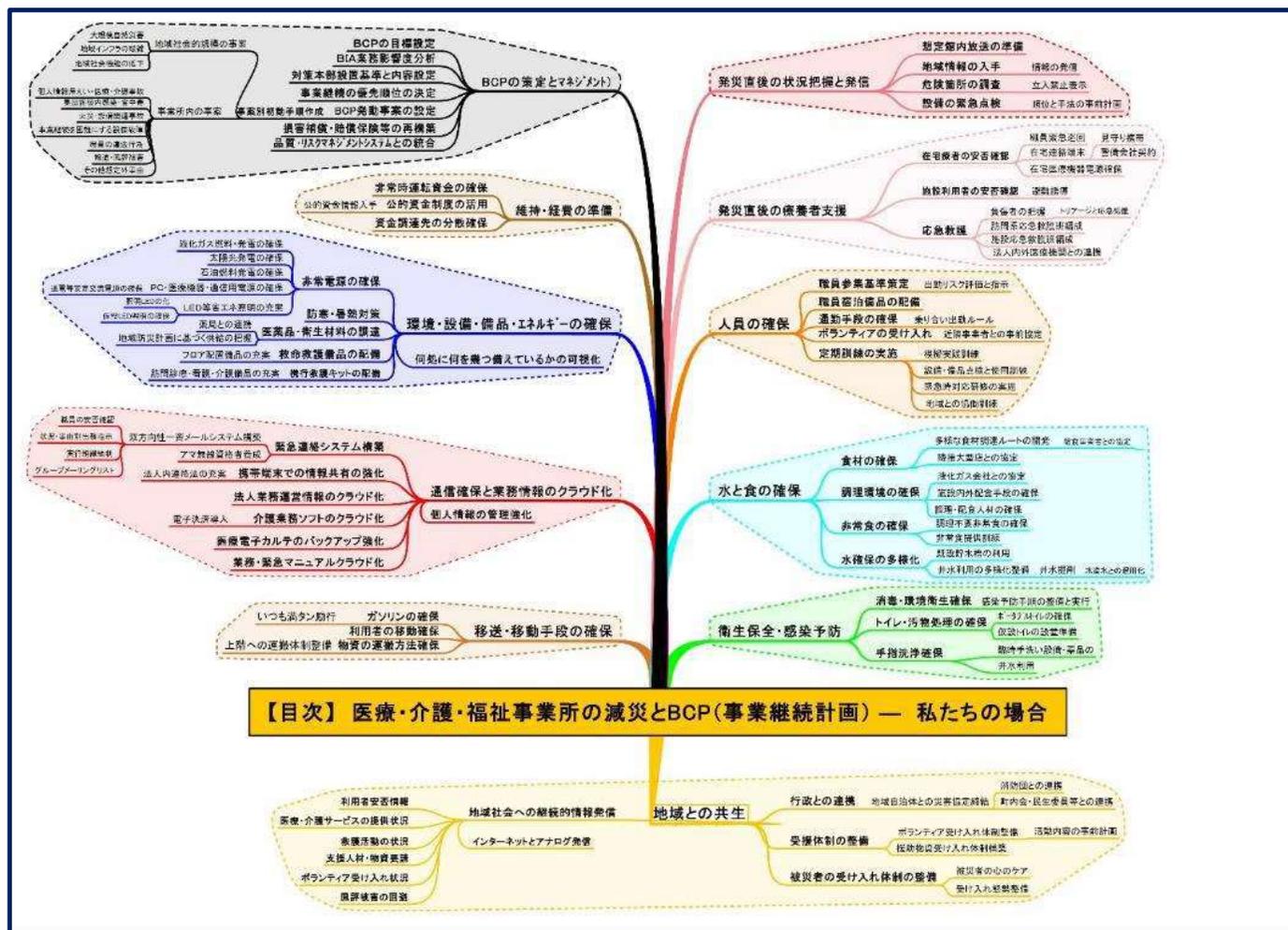
・**第三報(2014年)** 2014年2月の大雪による被害を経験し、想定外の危機事案を含めた**BCP**の見直し並びに、24時間体制での**BCP**発動のための、絶え間ない指示命令系統の確立についての報告。



・**第四報(2015年)** 地域との共生に主眼を置き、**情報通信技術(ICT)**を積極的に活用することで、家族や行政機関と平時はもとより、緊急時にも有効な連携体制の強化に繋げ報告。



・**第五報(2016年)** 2013年1月に地域自治体との**災害協定**を締結して以来、これまで地域社会との共生に力を入れてきたが、自治体や病院及び介護施設が協働して2016年10月に図上訓練を実施するに至ったので、それまでの過程を報告。



・第六報では

2016年10月に、地域自治体と社会福祉協議会、町内の病院及び介護施設が協働して、要配慮者の中の高齢者の受入に関する共同図上訓練を実施することができたので、実施の様子とその結果を報告する。



平成 28 年度 瑞穂町要配慮高齢者受け入れ共同訓練		
開催日時：平成 28 年 10 月 13 日 13:30~17:00		
場 所：瑞穂町ふれあいセンター 大会議室 2, 3		
参加人数： 名		
午前中は会場準備 10:00~11:00		
時間	内容	担当
13:30~13:45	開会の挨拶	【挨拶】 瑞穂町高齢者福祉・医療施設連絡会 会長 小山 良一 【司会】 眞海 啓
13:45~14:00	訓練内容の説明	【進行説明】 眞海 啓
14:00~16:00	図上訓練 ①発災 ②災害対策本部立ち上げ ③被害状況のとりまとめ ④要配慮高齢者の安否確認 ⑤施設への要配慮高齢者受け入れ要請 ⑥施設への要配慮高齢者移送協力要請 ⑦福祉ボランティアの派遣要請 ⑧町から施設へ必要物資供給	実行委員所属・氏名(順不同敬称略) 不老の郷 雨宮 昭弘 良友園 小山 謙也 みずほ園 秋田 裕二 フラワープラム 武内 修 けんちの苑みずほ 柏加登 勲 菜の花 眞海 啓 高沢病院 高橋 聡裕 瑞穂町社会福祉協議会 小山裕紀子 瑞穂町福祉部高齢課 片野 宏 恵田 和也
16:00~16:50	意見交換	各施設の対応を発表
16:50~17:00	閉会の挨拶	【挨拶】 瑞穂町福祉部高齢課 課長 白井 孝安

注) 要配慮者：高齢者、障害者、乳幼児その他の特に 配慮を要する者

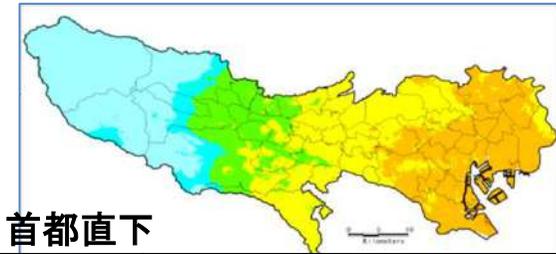
前回までの訓練準備状況は、

①事前協議	自治体	連絡会幹事施設	全体会議
	7回	2回	3回

②訓練目的の明確化	
①「災害協定」の有効性の確認	②各施設の連携体制の強化
③「防災計画」の検証	④管轄自治体全体の防災連携体制の強化

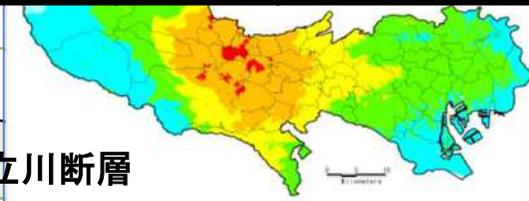


④訓練計画全体像の作成



首都直下

	負傷者	重傷者
区部	140227	21334 (3626)
西多摩	24	2



立川断層

	負傷者	重傷者
区部	3238	395(67)
西多摩	3631	458(重篤者77)

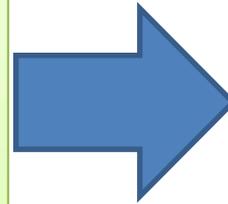
訓練実施計画書	
1 実施計画	瑞穂町福祉高齢者福祉、瑞穂町高齢者福祉、医療施設連絡会
2 目的	行政側、病院・施設側における首都直下型地震への備え強化するため、以下の4つを目的とする。 (1) 「災害時における要援護高齢者の避難施設に関する加配員」の有効性の検証 (2) 陸域所管部会・消防・医療施設連絡会各施設の連携体制の強化 (3) 「副都心地域防災計画」の検証 (4) 陸域所管全体の防災連携体制の強化
3 実施日時(仮)	平成28年10月13日(木曜日) 13時30分～17時00分 < 午前中 会場準備 > 13時30分～ 挨拶・訓練説明 14時00分 【訓練開始】 2時間進捗 16時00分～ 意見交換会(60分) 17時00分 終了
4 対象地域	東京都足柄野
5 訓練員数	協定書や防災計画通りに行動し、各施設が担うべき役割について一連の流れを確認する。

実施までの課題

- 1) 訓練実行委員の選定
- 2) 実行委員による事前準備
- 3) 訓練の実施

1) 訓練実行委員の選定

これまでは、
施設の責任者
レベルで議論を
してきた



実際に準備に
携わる、事務
レベルでの実行
委員を選出

実行委員 → 自治体、社会福祉協議会、受け入れ施設から1名ずつ

自治体	社協	施設
1名	1名	9名



2) 実行委員による事前準備

訓練計画書

1 実施計画者
瑞穂町福祉部高齢課、瑞穂町高齢者福祉・医療施設連絡会

2 目的
行政間、病院・施設間における首都直下型地震への備を強化するため、以下

- (1) 「災害時における要援護高齢者の避難施設に関する協定書」の有効性の
- (2) 瑞穂町高齢者福祉・医療施設連絡会各施設の連携体制の強化
- (3) 「瑞穂町地域防災計画」の確認
- (4) 瑞穂町全体の防災連携体制の強化

3

内容をみなで精査

1 3時30分～ 挨拶・訓練説明
1 4時00分 【訓練開始】 2時間程度
1 6時00分～ 意見交換会（60分）
1 7時00分 終了

直近の災害現場での 対応情報も取り込み、 皆で密に共有

○熊本県の医療供給体制について情報が混乱し、適切な配置が困難であった。
→東京のDMATはいったん引き上げた。時間とともに徐々に回復していったようである。

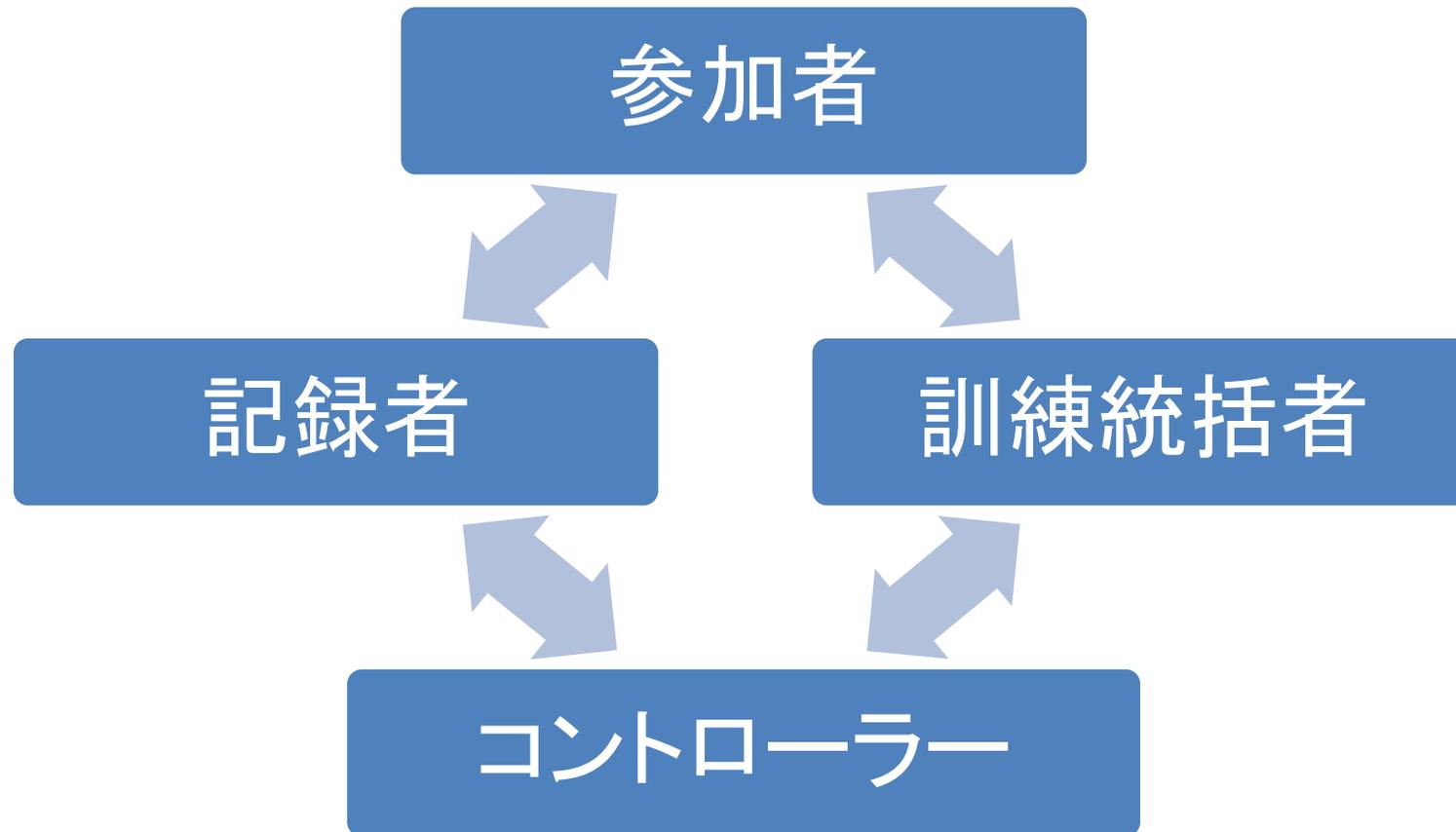
○福祉避難所への避難者の調整機能が働かなかった。
→ある福祉避難所には要支援者受入の要請が殺到したが、近所の一般の方が避難の申し入れがあり、断るわけにもいかず受け入れたため、要支援者の受入要請にはこたえることができなかった。
また、ある福祉避難所は全く受入要請がなかった。

筆記用具などの消耗品は各自が持参

訓練項目ごとの役割分担	訓練当日の動きがわかる計画
自らが、どう行動するかを考え	被害状況のみの大まかなシナリオ

3) 訓練の実施

共同図上訓練実施計画書に基づいて、自治体、社協、施設、病院の各実行委員がそれぞれの役割を担い、多業種の**自主参加型**の訓練とした。



3) 訓練の様子 その①

訓練前のミーティング



テーブルを配置



資料をセッティング



開始前の静けさ



3) 訓練の様子 その②

会長の第一声で訓練開始



時間が来ればみなで潜る



議論と検討を重ねる



最後は各位で感想の発表

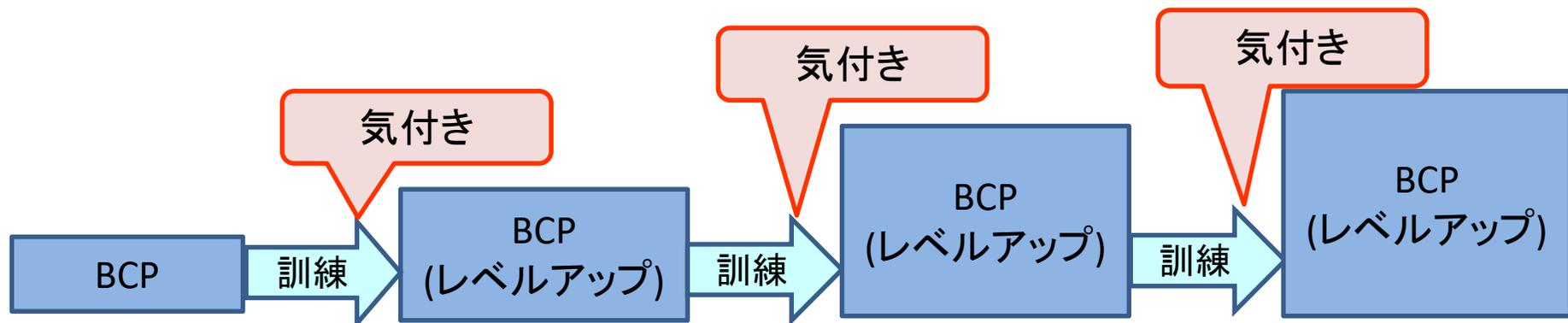


考察・結論

BCPの現場においては、想定を越えた状況での**決断**と柔軟な**対応力**などが求められる。

これらの対応力を育成するため、その場その場に応じた行動を**一から体験**することで、与えられた状況下において情報を整理し、行うべきことの優先順位付けや最適な選択肢を判断させる訓練を実施することができた。

基本を学ぶことで、各施設が担うべき役割を再認識し、災害時対応の標準化を見据え、担当者を初めとした施設全体の**災害対応力**の向上に資することができた実感できた。



完